～教員おすすめ本～ No. 6

短期大学部　商経科
鈴木　善充

『みんなのなやみ』

重松清　著

【先生からのコメント】

直木賞作家である重松清氏が 10 代から寄せられた「なやみ」について回答するという内容。「家族」、「からだと恋愛」、「学校生活」、「友だちのこと、いじめのこと」、「自分のこと」、「大人の常識って正しいの？」、「親だって、なやんでいる」の全 7 章にまとめられている。

あとがきにあるように、筆者が伝えたかったことは、「なやんでいても、よし！」です。なやみや試行錯誤の中で映画や読書がヒントをくれることも教えてくれます。一見、単純ななやみ相談でも奥深く答えていく重松氏は本当に懐が深いのだなと思う内容です。

『経済学に何ができるか
：文明社会の制度的枠組み』

猪木武徳　著

【先生からのコメント】

所得格差、貧困問題、金融危機、幸福などの社会問題に経済学はどのように向き合うのか。人々の物質的な豊かをどのように向上させるかを目標としているが、世間では経済学への評判はよくありません。また、現在進められている「アベノミクス」についても賛否両論であり、これは政策の実行には多くの利害関係者が存在するからです。

本書は、日本の経済学における泰斗が「できるかぎり偏りのない視点で、経済学に依りつつ経済社会の制度や慣行の意味を考える手掛かり」を提供してくれる内容です。経済学にある誤解を解いてくれる名著です。

2017 年 1 月 13 日
近畿大学中央図書館